

教育研究水準の向上に資するため、大学の教育、研究、社会貢献及び管理運営の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

教育 ～次代を支え挑戦する人材を育成～

【No.1 グローバルリーダー教育プログラムの展開】

○東西の両地区において、全学共通教育として一部科目の単位化を実施した。(グローバル教育ユニット参加学生39人)

【No.7 海外との交流の拡大】

△チャレンジ予算を活用してシアトル及びパースへの海外インターシップ(2人)派遣のほか、海外研修(110人)を実施した。

【No.12 COC地域志向教育プログラムの開講】

◎新たに副専攻「五国豊穰プログラム」を開講するとともに、地域志向科目の全学必修化を1年早め、28年度から開講する準備を整えた。

【No.14 地域資源マネジメント研究科博士後期課程の開設】

◎文部科学大臣より設置認可を受け、入学定員どおり2名の学生が入学して28年4月に開設した。

【No.17 減災復興政策研究科の開設準備・減災・復興に関する大学間ネットワーク“GAND”の運営】

○28年3月に文部科学大臣に認可申請を行い、29年4月の開設に向けた準備を実施している。また、27年4月にGANDに参画している中東工科大学(トルコ)との防災協力セミナーを防災教育研究センターで開催した。

【No.26 全学共通教育の再構築】

○共通教育の再構築に向け「全学共通教育改革の基本方針」を策定し、29年度からの見直しに向けた部会を設置し、検討体制を整えて全学的に推進することとした。

【No.30 教育プログラムの体系化】

○入学者受入方針、教育課程編成・実施方針、学位授与方針の見直しを行い、内容をホームページ上に公表した。

【No.34 教育研究組織の見直し】

○大学改革推進本部に3つの小部会で検討し、28年度以降における具体的検討項目等を基本方向として策定した。

研究 ～世界へ発信し地域に貢献する研究を推進～

【No.46 計算科学連携センターの充実】

◎大規模計算が重要となるビッグデータの研究課題に関する学術会議(1回)や放射光と計算科学をテーマとしたセミナー(3回)を開催するなど、「京」を運営する計算科学研究機構などとの連携を強化した。

【No.59 周産期ケア研究センターの開設】

◎科学的根拠に基づく助産ケア方法の開発や助産師に対する支援を実施するため、27年7月に県立尼崎総合医療センター内に開設し、中堅看護師・助産師が臨床実践力を深めるための研修会等を実施した。

【No.60-2 次世代水素触媒共同研究センターの充実】

○研究体制の充実に努めるため競争的外部資金の獲得に努めるとともに、水素発生・利用に関わる研究を推進し、研究成果を報告するシンポジウムを開催した。

社会貢献 ～地域再生の核として社会に貢献～

【No.64 産学公連携活動の充実】

◎地域における産業の高度化と新事業の創出を促進して地域産業の活性化を図ることを目指して新たに締結した協定に基づき、具体事業として28年1月には食と栄養の未来を考えるシンポジウムを開催した。

【No.71 自治体・地域団体との連携強化】

◎姫路市から姫路城マラソン経済効果測定受託など自治体との連携や、学生主体の産学公事業の実施などを通じた連携を強化し、日経新聞が行った「地域貢献度ランキング」において全国3位(公立大学トップ)となった。

管理運営 ～自律的・効率的な管理運営体制の確立～

【No.117 男女共同参画の推進】

◎女性研究者研究活動支援事業を活用し、研究支援員の配置による支援(利用者数延べ116人)やセミナーの開催(13回)などに取り組むとともに、女性教員の積極的な採用(新規採用25名のうち女性7名)や管理職への登用を実施した。

【No.118 コンプライアンス推進体制の強化】

○「コンプライアンスの推進にかかる基本方針」を策定して意識啓発を行うとともに、コンプライアンス推進会議を2回開催して推進状況のフォローアップを行うなど、より一層のコンプライアンスの徹底を図っている。

小項目評価結果の状況：全体として年度計画を順調に実施している

小項目名	27年度	26年度		小項目名	27年度	26年度	
		法人	委員会			法人	委員会
教育研究等の質の向上				自律的・効率的な管理運営体制の確立			
1 教育に関する措置				1 業務運営の改善及び効率化			
(1) グローバル社会で自立できる高度な人材の育成	b	a	B	(1) 法人組織	b	b	B
(2) 兵庫の強みを活かした特色ある教育の展開	a	a	A	(2) 教員組織	b	b	B
(3) 地域のニーズに応える専門家の育成	b	b	B	(3) 教育研究組織	b	b	B
(4) 質の向上を目指す教育改革の推進	b	b	B	(4) 業務執行方法	b	b	B
(5) 修学、生活、キャリア形成など学生支援の充実	a	a	A	2 財務内容の改善			
2 研究に関する措置				(1) 自主財源の確保	b	b	B
(1) 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a	a	A	(2) 経常経費の抑制	b	b	B
(2) 地域資源を活用した地域に貢献する研究の推進	a	a	B	(3) 資産運用管理	b	b	B
(3) 研究拠点の形成・発展のための重点資源配分	b	b	B	3 自己点検・評価及び情報の提供			
3 社会貢献に関する措置				(1) 自己点検・評価、監査の実施	b	b	B
(1) 産学連携活動の充実と全県展開	a	a	A	(2) 戦略的広報の展開と情報開示	a	a	A
(2) 地域の核となる大学づくりの推進	a	a	A	4 その他業務運営			
(3) 兵庫の特色を活かした国際交流の推進	a	a	B	(1) 県との密接な連携	b	b	B
				(2) 教育研究機能の整備	b	b	B
				(3) 安全・衛生管理	b	b	B
				(4) 法人倫理の確保	a	a	B
				(5) 組織及び業務全般にわたる検証の実施	-	-	-

法人：公立大学法人兵庫県立大学
 における自己評価
 委員会：兵庫県公立大学法人評価委
 員会における評価

実績報告書

年度計画の25の小項目ごとに、各取組事業評価結果を基に各事業の重要性を総合的に検証し、下記の4段階による評価を行った。

区分	達成度	判断の考え方	基準
a	計画を上回って実施	計画を上回って実施されていると判断	◎が有り△と×が無い場合
b	計画を順調に実施	概ね計画どおり実施されていると判断	◎と○が8割以上
c	計画を十分に実施できていない	計画がやや遅れていると判断	◎と○が8割未満
d	計画を大幅に下回っている	計画が大幅に遅れていると判断	△と×のみの場合

法人化3年経過後に実施する「組織及び業務全般にわたる検証の実施」については、今年度は評価していない。

年度計画に掲げられた156の各事業ごとに、自己評価や計画設定の妥当性を総合的に検証し、計画の実施状況について、下記の4段階による

区分	達成度	判断の考え方
◎	計画を上回って実施	達成時期・内容において計画を上回って実施していると判断
○	計画どおり実施	概ね計画のとおり推進中であると判断
△	計画をやや下回って実施	計画が遅れ気味であると判断
×	大幅に下回っている	計画が大幅に遅れており、取組状況に改善すべきところがあると判断